

# 気をつけましょう

む3月の平均気温は5.7～8.4度で泌乳適温に近いが気温の変化に対する感冒、肺炎の危険に十分気をつけましょう。

## イタリアンや青刈エン麦を努めて与えよう

春先は青刈飼料の不足する時、繁殖障害や難産から守るため青刈飼料を十分に与えるよう工夫が大切。

## 春はケトージスの多い季節です

良質の牧草・乾草・総合ミネラルの給与、運動、日光欲の励行、妊娠、泌乳飼料中のTDNの適正化を

## ぜひ一度、糞便の検査をして、肝蛭の寄生を調べよう

雨の降ったあと蹄が柔らかくなった時削蹄をしよう  
伸びた蹄は乳頭裂傷や乳管狭窄をおこし易いのです。

## 蛋白質・ビタミン・無機物の補給を忘れないように

寒い間に牛の栄養は偏重になっています。稲藁に単味の米糖等を少量与えるだけでは蛋白質は絶対に不足します。マメ科の牧乾草や埋芋、芋蔓等と大豆粕油粕、大豆等を加えてやりましょう。

特にカルシウムが不足し勝ちですから注意しましょう。

## まだまだ感冒や肺炎は危険な時期です

特に抵抗力の弱い子牛の風邪に気をつけましょう。肺炎は感冒に続いておこります。春先の夜風はまだつめたいものです。

## 牛が体を柱にこするのはシラミと思ってよいでしょう

この場合 DDT や BHC の粉末をガーゼに包んで毛の中にはたき込んでやります。また匍行疹は顔や頸に円形の小さい脱毛部が出来次々に広がっていきます。オリーブ油を塗って痂皮を軟らかくしたのちサルチル酸軟膏を塗ってやりましょう。



## 牧草の春播きに注意することは

播く前に先ず土壤改良をすることです。敷地はていねいに凹凸がないよう、そして基肥は充分に（各7.5kg）播いた後は必ず鎮圧をしましょう。

## イタリアンライグラスの利用と管理について

- ◇早春乾田では放牧又はけい牧に利用するのも一法
- ◇サイレージ用のほ場をきめておきましょう
- ◇乾草は穂ばらみ以後のもので
- ◇若い草の乾草はプスマと同じ価値があります
- ◇春先乾燥時の濁水は極めて効果的、うすめた牛尿ならなお結構です。

## 牧草の確保はこれからの畜産のカギ、抜本的に計画的に

## 初生雛の適温は生後1週間で32～35度です

雛は体温の調節作用が極めて不完全です。生後1週間位までは32～35度Cが適当で、その後1週間毎に10度C位ずつ下げていくようにしましょう。

## 雛の廃温は三週令頃よりします。

1週間もするといくらか温度の調節が出来ます。3週間位から注意し乍ら廃温をしていきましょう。

## 温度・換気に注意しましょう

孵化した雛は体内に70%以上のもの水分があつて乾燥すると卵黄不消化、その他障害を受けますから注意しましょう。又鶏、特に雛は消費する酸素の量が多く又排せつする炭酸ガスの量も多いので換気調節には特に注意をして下さい。

## 年度初めから経営収支の記帳の習慣をつけること

多羽数養鶏に必須のことは経営記帳をして収支の状態を絶えず明らかにしておくことです。